

# 大統領の当選演説を聴きながら

2020年11月 成田 滋

## はじめに

11月7日の朝、今回の大統領選挙で当選確実となった Joseph Biden と Kamala Harris の演説を楽しみました。一般に演説は会話とは異なって、文法が正しく、論理的で、理解しやすいものです。演説はアメリカ国民に向けてのものなので、内容が分かりやすいものであることは当然です。子どもにもお年寄りにも、貧しい人にも富める人々にも、様々な人種や宗教、信条、思想を超えて共通する価値感を訴えるのが演説です。しかも演説は海外へも放映されるので、愛国心を過度にかき立てるような偏った主張はできません。

私の子ども達は、アメリカの市民権を得て初めて大統領選挙で投票したようです。彼らは札幌と埼玉で生まれ。アメリカで教育を受け、仕事を見つけ、伴侶を得て子育てをしています。2人の演説が始まる前に Facetime で呼び出されますと、ディナーを楽しんでいました。11月6日と11月7日は2人の孫の誕生日で、当選確実の報道と重なり共に祝っていました。今やすっかり「アメリカ人」となっています。私ども夫婦にはちょっぴり寂しさもあります。

## 2人の演説

本題の当選演説に戻ります。結論を申しますと、2人の演説はとても格調が高く、分かりやすい内容で、私でも同時通訳ができる演説でした。過去の大統領の演説を援用し、聖書の言葉を引用しながら、



分断から統一、非難から寛容という対比が見事でした。こうした演説は、もちろんスタッフの中にいるスピーチライターが作ります。豊かな素養と見識がないと訴える演説草稿は作れません。演説する当人も原稿を読み返し、自分が理解できる内容に手直しします。明快で効果的な用語を使うことができれば、自分の主張が多くの人に訴え、真実として受け入れられるのです。「俯瞰する」といった、通常は使わなく、意味が不明でしかも手書きができないような単語は使ってはならないのです。

二つの演説で、意味がわからない単語がありました。それは「defiance」と「audacity」という言葉です。演説をききながら、辞書で調べると前者は、不服従とか反抗、後者は大胆さとか豪放さという意味とあります。「defiance」はトランプ大統領の「選挙結果を認めない」という往生際の悪さを示し、「audacity」とは国民の分断を毅然として解決する、というバイデンの決意を示す意味で使われていました。

心に残る演説といえば、リンカーン元大統領の「人民の、人民による、人民のための」(of the people, by the people, for the people)とか、キング牧師の「自分には夢がある」(I have a dream)、ケネディ元大統領の「国がなにをしてくれるかを問うのではなく、国になにをできるかを問う」(Ask not what your country can do for you. Ask what you can do for your country)という一節があります。どのフレーズも中学一年生で学ぶ単語ばかりです。そして、人々に訴える雄弁な演説となっています。こうした演説には文章やスピーチで大事な、「修辞」が使われていることです。修辞法とは、文章に豊かな表現を与えるための技法のことです。

## 修辞の方法

人々に訴える演説とか文章にはどのような手法が使われるのかを、今回の2つの演説から振り返ってみます。

第一は、フレーズが短く内容が平易であることです。長い文章は、意味が伝わりにくいのです。文章という視覚情報とはことなり、聴覚からの情報は一瞬のうちに消え、脳裏には残りにくいのです。ですから短い表現が大事なのです。バイデンの演説には、次のようなフレーズがあります。文章は時に短いほうが訴えるのです。

・ A nation united. A nation strengthened. A nation healed. (国は統合される。国は強められる。国は癒される)

第二は、家族など身の回りの人々を引用することです。家族を引き合いに出して、家族の繋がりの大切さを主張し、聴衆に親しみ深さを与えるのです。

・ I'm Jill's husband. I would not be here without the love and tireless support of Jill, Hunter, Ashley all of our grandchildren and their spouses and all our family. They are my heart. (私は妻ジルの夫です。彼女や子どもや孫らの愛とたゆみない支えによって、今の自分があります。家族は宝物です。)

第三は、様々な修辞を使うことです。そのことを演説から解説します。

1) 並列法：

・ The Bible tells us that to everything there is a season – a time to build, a time to sow, a time to reap. And a time to heal.

このフレーズは旧約聖書の箴言からの引用です。(作り上げるに時あり、撒くに時あり、刈りとるに時あり、癒すに時あり) こうした表現は対句とも呼ばれ、類似した語呂を使って読者や聴き手に印象づけるのです。



2) 反復法：

・ Kamala Harris – who will make history as the first woman, first African American woman, first woman of South Asian descent, and first daughter of immigrants ever elected to national office in this country.

「first」を反復することによって、「初めて」女性が副大統領になるのだ、ということが際立ちます。次の文章も反復の例です。

・ you chose hope, you chose Biden. (皆さんは希望を選んだ、そしてバイデンを選んだ)

3) 省略法：

・ I may be the first woman in the office, I will not be the last. (私は最初の女性副大統領となるが、最後の副大統領ではない)このフレーズには省略法も使われています。本来ならば、「I will not be the last woman in the office」が正しい表記ですが、それでは、冗長になります。内容を短縮し、文脈から推測できることでよいのです。そのほうが余韻が残るのです。

4) 対照法：

次の二つのフレーズは同じ立場や条件において、全く逆の表現を使う方法です。

・ I pledge to be a president who seeks not to divide, but to unify. (私は分断を望む大統領ではなく、統合を目指す大統領となることを誓います。)

・ I will work as hard for those who didn't vote for me – as those who did. (私は自分に投票しなかった人々にも、投票した人々にも等しく、懸命に尽くします。)

## おわりに

文芸評論家で劇作家であった島村抱月は、「美辞学は一箇の文章学である。それ故に文章は一面の美術である」と書いています。演説原稿作りも美学であるということです。情報を発信し情報を受け取るには「言葉によって書く」ことが最も正統的です。言葉は、聴衆に合わせて聴衆が理解できるものを選ぶのです。言葉を連ね、それを修辞によって無駄がなく、すっきりとして分かりやすく、心に残る草稿に仕上げるのです。今回の当選演説はそれが伝わるものでした。

**「はじめに言葉があった」(In the beginning was Word)。**

**ヨハネによる福音書第 1 章第 1 節**